

異種为天蛾の交尾の一例

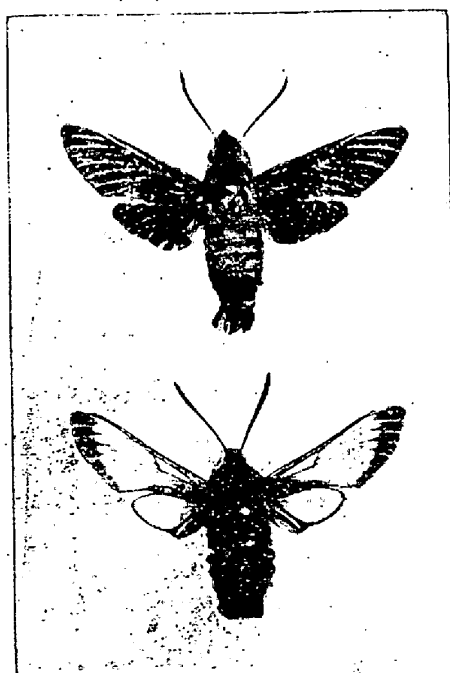
江 崎 悌 三

堀 浩

自然の狀態に於て、異種の昆蟲の間に屢々雜交の起ることは周知の事實であり、時に異屬又は異科の昆蟲にも之を見ることがある。本邦に於ける既知の例に就ては、私(江崎)が嘗て報告したことがある。⁽¹⁾ 又天蛾類 (Sphingidae) に於ては近似の種類の中に自然的に又は人爲的に雜交を起させ、且雜種を作り得る例が非常にたくさん知られてゐる。本邦産の種類に於ては此の如き例は著者等の寡聞なる範圍では未だない様であるが、このことに就ては長野菊次郎氏が述べて居る。⁽²⁾ 外國のものに關しては夥しい數の文獻があり、著者の知つてゐるものだけでも、一々これ

を列擧することは到底不可能である。頃日著者の兩名は偶然面白き一例を観察したので、ここに其報告に及ぶ次第である。

昭和四年 (1929) 五月十六日、筑前國若杉山に採集に赴き、その歸途既に夕刻に近く下山の際、偶々叢間から異様な蛾が飛び出たしたので、能く見るとホウジャクの類の交尾したものであることを知り、著者等兩名は追ふこと



交尾してゐた異種为天蛾の標本

上 *Macroglossa bombylians* BOISDUVAL.

ヒメクロホウジャク ♂.

下 *Haemorrhogia radians* WALKER.

スキバホウジャク ♀ (江崎寫眞)

(1) 江崎悌三——昆蟲の雜交の二三の例に就て (昆蟲世界、xxv, p. 217-221, 1921)

(2) 長野菊次郎——天蛾科の雜種 (桂園漫録) (昆蟲世界、xvii, p. 194-197, 1913)

数十メートルにして漸くこれを捕獲した。捕獲後漸時にして彼等は網の中で分離したので、別々に毒瓶に入れて殺した。殺した後に観察すると両者は紛れもなく別の種類で、

Macroglossa bombylans BOISDUVAL ヒメクロホウジャク ♂

及 *Haemorrhogia radians* WALKER スキバホウジャク ♀

の2種であつた(附圖参照)。かくと知つたら、卵を産ませて飼つて見たら面白からうと思つたが、既に後の祭りであつた。標本は共に多少傷んでゐたが、種類の同定には勿論十分であつた。(1929. VII. 1).

ガロアムシの食餌

1929 年4月8日採集のガロアムシ2頭を唯殺してしまふのも物足りない
ので、飼つて見ようと思つた。が、さて、何を食はせたらよいのかと迷つた。
古川晴男氏が白蟻を食はせて見たらと言はれたことを思ひ出し、早速附近を
探して數十頭を得た。先づ第一のガロアムシに1頭を與へた所、始めは見向
きもしなかつたが、やがて近寄つて來て、頻りに觸角で觸れてゐたが、白蟻
が動き出すと俄然飛びかかつて食ひつき頭部を残してみるみる中に食ひ盡し
た。第二のガロアムシも同様であつた。そして兩方共 10 頭程食つて大分滿
腹らしく見えたので、先づ成功と、その日は打切りにした。これは 1929 年
4 月 10 日のことである。

それから1日に5頭乃至10頭位食はせてゐたが、6月になつて白蟻が得
にくくなつたので1日3頭位に減らした。

7月に入つて白蟻が益々缺乏を告げたので2日置き位に食はせた所、7月
13日に至つて遂に全く斃れた。飼ひ始めてから約97日生きてゐた譯にな
る。之によれば一年位飼ふのは容易であらうと思ふ。

又、河田黨氏は蟻の幼蟲で飼はれたさうである。單に白蟻ばかりでなく、
他に種々なもので飼ふことが出来るであらう。(朝比奈正二郎)